

(6) 2017年(平成29年) 11月22日(水曜日)

「ありがとう」と言って人生を送れる人は幸いな人です。その人の周りには必ず人が集まり、和やかな雰囲気と、一緒に生きる楽しさが出てくることでしょう。そんな方が、今年の3月に天に召されました。わたしたちの教会員として50年以上前から存じ上げていた方でした。最後の数年間は、煩いがあつて大変でしたが、それでも最後までしっかりとした意識をもって家族の方々に「ありがとう」と言いながらこの地上での最後を迎えられたのでした。93歳でした。

この方が、教会に来られるようになってすぐに信仰をもたれたのではないと言っておられました。最初の10年ぐらいは奥さまと子供さん方を

教会に連れてきて、礼拝には出るけれども信仰には無関心でした。そんな方が信仰に目覚めたのは、自分が生きてきた人生を振り返ってどうして自分の人生はこんなにも順調

も支えられて仕事もすることができた。自分のことばかりを思っておられたその心に「神様」が与えて下さったことだと実感されたのです。それがキリスト信仰を始め

教えてくれました。そばで見えても、第三の人生を謳歌しておられると思いましたが、元氣はつらつと学び、教えておられる姿は何ともまぶしく輝いていました。70、80歳を超えても神様を知る喜びと伝える喜びに満ち溢れ、この方の回りには最後まで人々が集まってきました。

最後のとき、もう床に横になる日々が多くなってしまいましたが、家族の人たちのケアに心から感謝する言葉があふれ出ていました。そしてその床にある方と共に神様への讃美をいたしました。もう声が出なくなってきたいましたが、わたしが「驚くばかりの恵なりき、この身の汚れを知れるわれに」と讃美し始めると、その出にくいのでから、美しい声が出てきて一緒に讃美しました。その讃美は、わたしも真実に歌っているつもりでしたが、その方から出る「驚くばかりの恵み」という言葉は93年の人生から出てくる信仰の告白でした。この神への驚くばかりの恵みを知っておられたから、神様へのありがとうと人々へのありがとうがこの方の人生に満ちていたのだと思われました。わたしにとつてこの方の最後は、天国への希望を深める機会となりました。

南加キリスト教会連合

「ありがとう」

溝口 俊治

に進んでくることができたのかをフツと考えたときがあったからです。その時気づいたのが、それは神様のおかげであつたということでした。自分の力で家族を育て、自分の力で稼ぎ養ってきた、健康に

るきっかけであつたそうです。そして、その神様を信じて長い人生を送ってこられたとき、ますますこの神様をお伝えしたいという思いが大きくなり、引退された後は教会にて多くの人々と共に学び、

そして、神様が与えて下さる人生は一時的にはどんなに苦しいように思えても、祝福の人生であると心底思います。

(ロサンゼルス・ホーリネス教会)